

教育研究所だより

平成22年1月28日 NO. 168

守山市教育研究所発行

守山市勝部三丁目9-1 (守山市生涯学習・教育支援センター 通称: エルセンター3・4階)

TEL 583-4217 FAX 583-4237

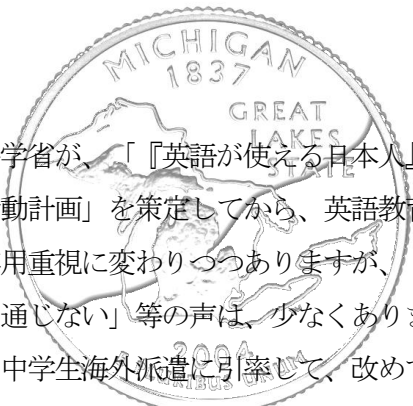
E-mail kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp

所長 寺 町 卓

小・中学校における「英語活動」を通じた実践的英語力の育成

守山市教育委員会事務局学校教育課主査

有友 義明



文部科学省が、「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」を策定してから、英語教育も受験重視から実用重視に変わりつつありますが、「聞き取れない」「通じない」等の声は、少なくありません。

今回、中学生海外派遣に引率して、改めてその理由を感じ取ることができました。

まず、リスニングに関しては、カタカナ英語が全盛であるのになぜ聞き取れないのでしょうか。カタカナ英語は和製英語であり、実際の発音とはかけ離れている場合が多いからです。running, waterなどは、ランニング、ウォーターとして日本語として使われています。しかし、実際にはラニング、ウォタという発音です。日本語として記憶していると頭の中では英語と結びつかないのです。この和製英語を実際の発音と結び付けて記憶することが重要と言えましょう。外国語活動や英語教育において、英語を聞いて類推し、英語で考えるということは重要ですが、カタカナ英語の実際の発音を認識させ、記憶させることによって、リスニング効果があがり、スピーキングへと繋がっていくのではないのでしょうか。まずは、身近な和製英語がはっきりと英語として聞き取れることが第一です。

次に、スピーキングに関しては、アクセントが重要です。今回の中学生海外派遣で、派遣団員の中学生が、現地の小学2年生に英語で日本文化を説明する機会がありました。後日、現地からそれに対する感想が、送

られてきましたが、その中に次のような一文がありました。

「小学2年生には、日本人中学生の発音は平坦で理解しにくかった。」

発音では、LやTHなどの発音が重視されがちですが、LとR、SとTHの発音の違いは、話の前後関係などでも認識可能です。むしろ、カタカナ英語でも、アクセントを強調して言うことが重要なのです。

waterはウォーターと発音するよりもウォタと発音する方が通じます。私は、生徒に「先生の英語は音楽みたい。」と言われたことがありますが、英語にはリズムが存在します。そのことを念頭において、リスニングやスピーキングを繰り返し練習させることが、実践的英語力の育成に繋がっていくのではないのでしょうか。



2009年度 中学生海外派遣団活動の様子

In Michigan, USA

平成21年度の「教育研究所だより」では、『英語活動について』各分野の方々からご意見を賜っています。

研修講座受講者の感想から



郷土守山に学ぶ研修講座Ⅳ「諏訪屋敷・少林寺を訪ねる（10月23日）」

- ・ 普段見られない貴重な文化財を見学できて大変勉強になった。
- ・ 守山に住んで30年以上になるが、地元の歴史については殆ど何も知らなかった。これからこういった歴史を知りたいと考えたときに、このような企画をして頂いたことは有難い。今後もこういった企画を継続してほしい。

くすのき教室から



「体験学習 楽しかったよ！」

2学期には「くすのき教室」でも二つの行事がありました。一つは、守山、野洲、栗東、草津の4市の適応指導教室合同での「ふれあい体験」です。野洲のウッディハウスでの工作や銅鐸博物館の見学を通して交流を図りました。もう一つは滋賀県心の教育相談センター主催の「うみのこ体験活動」です。県内の適応指導教室に通級している児童生徒が学習船「うみのこ」にのって琵琶湖学習をしながら1日を楽しく過ごしました。くすのき教室の児童生徒も、積極的に交流というわけにはいきませんが、活動を楽しみながら他市の児童生徒、指導員と交流できました。日頃、外に出る機会の少ない児童生徒にとっては意味のある体験活動だったと思います。写真は体験活動のときに作ったものやひろってきた落ち葉で活動を振り返りながら仕上げた作品です。



3学期を迎え、守山市の適応指導教室「くすのき教室」に通っている児童生徒にとっても、今年度をどのようにまとめ、来年度、この4月からの過ごし方をどのようにしていくのか大事な時期を迎えています。学校への復帰をめざして、各自の状況に応じて援助をしながら毎日の活動を充実していきたいと思ひます。

学校へ行きづらい、休むことが多くなってきたなど、子どもさんの不登校のことはもちろん、子育て等で悩まれた時は、お気軽にご相談ください。

TEL 583-4237

教育研究所の蔵書紹介

Ⅱ

教育研究所では教育に関する本を中心に、皆さまにご覧頂ける書物・CD等を多数所蔵しております。蔵書紹介2回目の今回は、「子育て」や「親業」に関する本をご紹介します。

親たちの暴走（多賀幹子著、朝日新聞社） 暴走を続ける日本のモンスターペアレント達。教師のうつ病は4000件を超え、いまや社会問題に。欧米でもさらに想像を絶する傍若無人な親たちが猛威をふるう。しかし、その原因は何か。何が親たちをそこまで追い詰めたのか。

子どもの心 みえますか（遠藤豊吉著、文化出版局） 小学校教員を退職後、数多くの教育に関する相談に乗りアドバイスしてきた著者が、その事例を通して、悩める親や教師に優しい言葉で語りかけている。

ほめて伸ばす！叱って育てる！（三川俊樹著、東京書籍） 「効果的なほめ方・適切な叱り方が分からない」「うまくいかない」という子育ての悩みに鋭い視点と分かりやすい表現でアドバイスしている。

あなたの子どもの学校生活で必ず成功する法（ウィリアム・グロッサー著、アチーブメント出版）

「批判する、責める、文句をいう、ガミガミいう、脅す、罰する、ほうびでつる」この7つの致命的習慣を断てば、子どもは伸びる！